

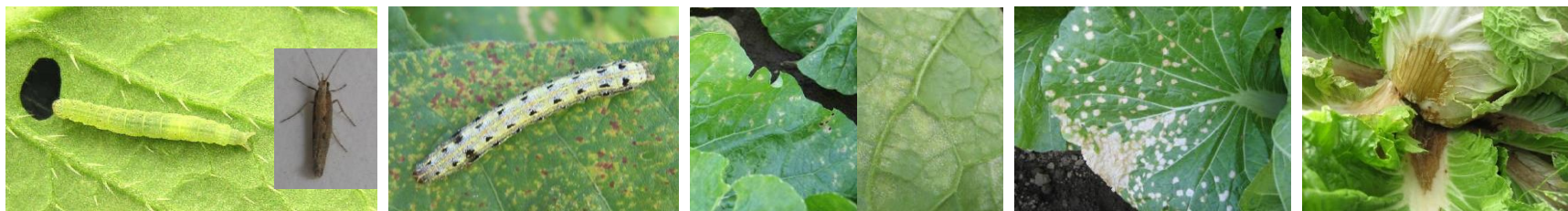


ハクサイ生育期における主な病害虫防除



ハクサイの生育中には、アオムシ、ヨトウムシ、ハスモンヨトウ、コナガなどチョウ目害虫やカブラハバチなどが葉を食害したり、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などを発生します。育苗期や定植時の土壌処理後2週間~1か月くらいして、処理した薬剤の効果が切れてくると害虫の産卵や幼虫のふ化が始まりますので十分な注意が必要です。

また、秋には長雨や強風雨を伴う前線または台風の接近などが今後とも予想されますので、べと病や白斑病、黒斑病、菌核病、軟腐病、黒斑細菌病などの発生に十分な注意が必要です。これら各種病害に対しては、早期発見と早期防除が重要になりますので、下記を参考に、病害虫の予防や早期防除を徹底して、被害防止に努めてください。



コナガ幼虫 (左) と成虫 (右)

ハスモンヨトウ幼虫

べと病 (表) べと病 (裏)

白斑病

軟腐病

(写真：茨城県病害虫防除所)

表1 ハクサイ本圃 (生育期) における主要害虫の主な防除薬剤 (令和5年9月19日現在)

薬剤名	アオムシ	コナガ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	カブラハバチ類	タマナギンウワバ	アブラムシ類	分類
アクセルフロアブル	○	○	○	○	○			22B
アタブロン乳剤	○	○	○	○		○		15
アニキ乳剤	○	○		○	○			6
グレーシア乳剤	○	○	○	○		○(ウバ [*] 類)		30
コテツフロアブル	○	○	○		○(カブラハバチ)			13
サイアノックス乳剤	○	○	○(若~中齢幼虫)			○	○	1B
スカウト乳剤	○	○	○			○	○	3A
ディアナSC	○	○	○	○		○(ウバ [*] 類)		5
トルネードエースDF	○	○	○		○	○(ウバ [*] 類)		22A
ハチハチフロアブル	○	○					○	21A
フェニックス顆粒水和剤	○		○	○				28
プレオフロアブル	○	○	○					un
モスピラン顆粒水溶剤	○	○			○(カブラハバチ)		○	4A
ウララDF							○	29

注1) 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

注2) コナガは殺虫剤抵抗性が発現しやすく、現在、IRAC分類コード:28(ジアミド系剤のフェニックス顆粒水和剤など)では殺虫効果の低下した事例が見られます。この場合は、他分類(コード)の薬剤を使用して防除してください。

表2 ハクサイ本圃 (生育期) における主要病害の主な防除薬剤 (令和5年9月19日現在)

薬剤名	べと病	白斑病	黒斑病	菌核病	軟腐病	黒斑細菌病	分類
オーソサイド水和剤80	○	○	○				M4
ストロビーフロアブル	○	○	○				11
シグナムWDG	○	○	○	○			7と11
ダコニール1000	○	○	○				M5
トップジンM水和剤		○		○			1
パレード20フロアブル		○	○	○			7
プロポーズ顆粒水和剤	○	○	○				40とM5
ペンコゼブ(ジマンダイセン)水和剤	○	○	○				M3
ホライズンドライフロアブル	○						11と27
Zポルドー	○				○	○	M1
ロブラール水和剤		○	○	○			2
アグリマイシン-100					○	○	25と41
カセット水和剤					○	○	24と31
スターナ水和剤					○	○	31
バリダシン液剤5					○	○	U18

注1) 分類欄には、FRACコードを記載しました(コードが2つは混合剤)。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。